

## **前橋市中央児童遊園「るなばあく」に 民間資金を活用し、新規遊戯施設「立体迷路」を設置**

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（代表取締役社長：野崎秀則）の子会社である株式会社オリエンタル群馬（本社：群馬県前橋市、代表取締役社長：中埜智親）は、管理運営を行う前橋市中央児童遊園「るなばあく」（以下、るなばあく）内へ、新規遊戯施設「立体迷路」を設置します。立体迷路は、令和2年3月20日（金）より、営業開始予定です。

1月10日（金）に前橋市役所で行われた市長定例記者会見において発表され、立体迷路に関する記事が4社（株式会社上毛新聞社、株式会社毎日新聞社、株式会社日本経済新聞社、株式会社朝日新聞社）で掲載されました。

「るなばあく」は、令和元年11月1日（金）に開園65周年を迎えました。また、令和2年4月からの次期指定管理者公募では、「るなばあく新時代へ」というコンセプトのもと、前橋市に本社を置く企業で構成された共同企業体の「Made in MAEBASHI コンソーシアム」（以下、MMC）[代表企業：株式会社オリエンタル群馬、構成企業：泉野建設株式会社、コーエィ株式会社、株式会社ソウワディライト]が指定されました。現在のるなばあくは、老朽化した公共施設の改修・整備と少子化を見据えた新たな事業によるターゲット層の拡大が求められています。そのため、公募時にMMC代表企業である株式会社オリエンタル群馬の民間資金を活用し、立体迷路を設置することを提案しました。なお、立体迷路の基礎・擁壁の施工費は、MMC構成企業である泉野建設株式会社にご協力頂いております。

“るなばあく”という狭い敷地に新しく遊戯施設を導入するには、立体的な整備が不可欠でした。また、るなばあくの設置目的は「児童に健全なる遊びを与えその健康の増進を図ること」であり、様々なからくりや障害を乗り越えることが、子どもの知育や体育につながり、児童の健康の増進が期待できると考え、立体迷路の導入が最適であると考えました。

### 【立体迷路の概要】

■工事期間：令和2年1月14日（火）～3月6日（金）※天候等で変更する可能性があります。

■営業開始日：令和2年3月20日（金）予定

■営業時間：9時30分～17時00分（るなばあく開園時間内 閉園時間30分前が最終入場）

■休業日：火曜日・雨天日（るなばあく休園日に準拠する。）

■設置場所：るなばあく 東の広場

■コース：全3コース（知育コース、体力コース、記憶力コース）

※難易度が違う3つのコースで構成されています。

(1) 【全国初】未就園児も利用できる「知育コース」

(2) 多くの障害物やアスレチックアイテムの中を進む「体力コース」

(3) 自分の記憶を頼りに難易度の高いからくりの中を進む「記憶力コース」

※コースの名称は変更する可能性があります。

■利用料金：お一人様1コース200円（税込）

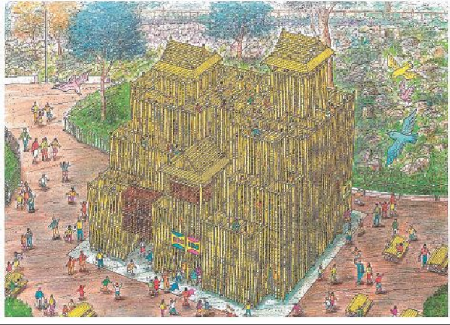
※3コースはそれぞれ別料金となります。

※知育コースを利用される3歳以下のお子様の引率者は無料です。

■所要時間：各コースおよそ約20分

■大きさ：約12m×約10m 高さ約13m

公表された立体迷路のイメージ図



図\_立体迷路整備イメージパース

高さ13m・4層

3コース設定

# るなばあくに立体迷路

前橋 幼児から大人まで  
3月20日営業開始

前橋市中央児童遊園「るなばあく」(同市大手町)に、大型の立体迷路が登場する。子どもから大人まで楽しめるよう、難易度が異なる3コースを設け、3月20日に営業を始める。市などは新たな魅力で客層を拡大し、昨年11月に開園65周年を迎えた園をさらに長く愛される施設にしたいと考えた。

市と指定管理者のオリエンタル群馬が10日発表した。立

体迷路は、4月以降の指定管  
理者となる共同企業体「Ma  
de in M A E B A S H  
製の立方体を組み合わせる  
Iコンソーシアム(MMC)  
の代表企業として同社が設置  
し、構成企業の泉野建設が基  
礎・擁壁工事を負担する。  
立体迷路は園内東部に設  
置。縦横それぞれ12mと10m、

全国初の未就園児も利用で  
きる「知育」、障害物やアス  
レチックの中を進む「体力」、  
記憶を頼りにかくくりの中を  
進む「記憶力」の3コースを  
設定し、出口を目指す。

各コースとも所要時間は約  
20分。料金は1コースにつき、  
1人200円。定員は最大1  
90人。同様の立体迷路の利  
用料金は400〜500円が  
一般的で、全国でも最も手軽  
に遊べる料金設定という。  
るなばあくは、1954年  
に開園し、世代を超えて愛さ  
れてきた。ただ、老朽化した  
施設の整備や少子化への対応  
に向け、新たな客層の拡大を  
検討。狭い敷地に新たな遊具  
を導入することになるため、  
立体的な整備が不可欠と判断  
し、子どもの知育や健康につ  
ながる立体迷路の導入を決め  
た。

2020年1月11日付 上毛新聞社

<本資料に関するお問い合わせ先>  
株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011  
URL: <http://www.oriconsul.com/>  
統括本部 宮内、丸山